

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

事業所名	児童発達サポートセンターはぐくみ（児童発達支援）	
保護者評価実施期間	2024年12月1日～2025年1月31日	
保護者評価有効回答数	対象者数 10名	回答者数 10名
従業者評価実施期間	2024年12月1日～2025年1月31日	
従業者評価有効回答数	対象者数 5名	回答者数 5名
事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日	

分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育（母子通園・個別通園）の為、個々の能力や性格等に合わせ課題を調整している。	特に年長児においては、学校と同じ環境（授業）を想定し学校で使用する机や椅子、板書（黒板）の課題、音読、課題の持ち帰り（宿題）を取り入れる様にしている。	ホームページや会報にて個別療育の種類・方法等を紹介するよう努めている。
2	ご家庭や保育園等での困り感をお聞きし、個々の能力や性格等に合わせソーシャルスキルトレーニングを実施している。	ご家庭や保育園等の困り感をお聞きし、地域社会（横断歩道の渡り方等）の教育を実施している。 小学校入学すると登下校が必要になったり、危険回避能力を高める取り組みも行っている。	個別療育後の5-10分間程度時間に運動遊びを取り入れて、ルール遊び、危険回避等を学んで頂いている。
3	送迎サービス（旧本渡市内 要相談）を実施している。	保育園等から出かける時や帰ってきた時の挨拶。車に乗車している時の姿勢や態度や会話。来所時や退所時の挨拶。	療育時にソーシャルスキルトレーニングにて交通安全（車内時、車からの乗り降り、横断歩道の渡り方等）について実施している。

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育の為、保護者間の交流が少ない。	年数回の勉強会等を開催について検討	勉強会の内容、時間、方法等の検討が必要
2			
3			